



(挿絵: 平田美紗子作)

企業のリスクマネジメントについて

近年では地球温暖化や環境の変化に伴うとみられる風害、水害、雪害、干害などの自然災害が多発する傾向にあります。

2017年1月に有限責任監査法人トーマツのリスクマネジメント等に関する研究機関が「企業のリスク・クライシスマネジメント実態調査」の結果を公表しました。ここで、特に着目すべき点は、日本国内における「最も優先すべきリスク・クライシス」として、「地震、風水害等、災害の発生」が一番高くなったことです。次いで「法令遵守違反」、「情報漏えい」となっております。

海外拠点のリスクについては、「法令遵守違反」が18.2%、次いで「地震・風水害等の発生」、「国際紛争、テロ等の発生」が16.2%と上位になり、国内リスクと異なっています。

【日本国内において、最も優先して着手が必要と思われるリスク・クライシス】(3項目まで選択可)

リスク	回答率
地震・風水害等、災害の発生	37.0%
法令遵守違反	25.3%
情報漏えい	22.8%
製品/サービスの品質チェック体制の不備	17.7%
サイバー攻撃・ウィルス感染	17.5%
人材流失、人材獲得の困難による人材不足	14.9% (以下省略)

(出展: <https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/about-deloitte/articles/news-releases/nr20170125.html>)

森林保険センターでも平成27年、28年と多数の台風被害等のご報告を受けております。

森林保険は、森林所有者様の自然災害に対するリスクの備えとして、火災、気象災(風害、水害、雪害、干害、凍害、潮害)、噴火災の8つの災害による損害を総合的に補償する唯一の保険です。是非、森林保険をリスクマネジメントにお役立てください。

研究分野との連携について

森林研究・整備機構の研究分野と連携し、森林の自然災害に関する専門的知見からの協力や森林保険業務で得られたデータを活用した森林災害に係る研究を推進しております。今回は、この研究についてご紹介いたします。

この研究では、森林気象害の中でも特に大規模面積の被害になりやすい風害・雪害・林野火災を対象としています。この目標達成のために①気象害ごとのリスク評価モデルの開発 ②リスク評価モデルの入力値を与えるデータベースの整備を行っています。

【5つの研究テーマ】

- ア 強風時の風特性を考慮した倒木モデルの開発
- イ 着雪・落雪過程を微気象データから予測する樹幹重量予測モデルの開発
- ウ 林分毎に林野火災の発生・拡大危険度を予測するモデルの開発
- エ 強風の当たる場所を予測し広域的にマッピング
- オ 森林被害情報及び気象災害発生に関する因子のデータベースを作成

森林気象害のリスク評価手法に関する研究

①リスク評価モデルの開発

- ア 強風による倒木モデル
- イ 樹冠着雪重量予測モデル
- ウ 火災危険度予測モデル

②データベースの整備

- エ 強風域マッピング
- 森林被害情報
- 地理情報
- データ

リスク評価手法に関する統合的な検討

オ データベース
(被害リスクの試算・モデルの検証)

成果

森林保険センター 都道府県 国有林

この研究を通じて自然災害の発生リスク評価が広域で出来ることになれば、森林所有者の皆様にも所有森林のリスクについてお伝えすることが出来るものと期待しています。

森林総合研究所の名称変更

当法人の名称が「国立研究開発法人森林総合研究所 森林保険センター」から

「国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林保険センター」に変更されました。

森林保険センターの体制や業務内容については、これまでどおりで変更はありません。また「国立研究開発法人森林総合研究所」理事長名で契約いただいた森林保険につきましても、名称変更の手続きは行いませんがこれまでどおり効力を有することになります。

発行元: 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林保険センター

(HPアドレス: <https://www.ffpri.affrc.go.jp/fic/>)